

ISSN 2186 – 3989

外国学会発表報告

2024 年度東アジア日本研究者協議会

第 8 回国際学術大会

2024 年 11 月 8 日（金）～ 10 日（日）淡江大学（台湾）

国際交流センター 大谷 鉄平

北 陸 大 学 紀 要
第58号(2025年3月)抜刷

外国学会発表報告

2024 年度東アジア日本研究者協議会

第 8 回国際学術大会

2024 年 11 月 8 日 (金) ～10 日 (日) 淡江大学 (台湾)

国際交流センター 大谷 鉄平

発表題目：見出し文にみられる類語「アツい」と「ホット (な)」の異同一対象と
言い回し・文脈の観点から一

【概要】

2024 年 11 月 8 日～11 月 10 日、淡江大学淡水キャンパス (台湾) にて東アジア日本研究者協議会第 8 回国際学術大会が開催され、報告者はこれに参加した。同協議会の HP¹によると、同協議会の目的は「東アジアを中心とした国々の研究者に、多様な分野において蓄積されてきた日本研究に関する成果を発表・議論する場を提供し、日本研究と日本研究者の国際的交流の発展に寄与すること」とある。また、設立趣旨としては「第一に、日本研究の質的な向上を目指すこと。第二に、地域の境界に閉ざされた日本研究から脱し、より多様な観点と立場からの日本研究を志向すること。第三に、東アジアの安定と平和に寄与すること (同上)」とあり、第 1 回は 2016 年にソウル大学で開催された。

今回の第 8 回国際学術大会では、第 1 日目の 11 月 8 日に 3 つの基調講演があり、翌 9 日、ならびに 3 日目 10 日には日本社会、日本語学、日本語教育、日本文学、日本文化等々の様々な分野での口頭発表ならびにシンポジウムが行われ、その中で報告者は「見出し文にみられる類語「アツい」と「ホット (な)」の異同一対象と
言い回し・文脈の観点から一」との題目で口頭発表を行った。

【所感】

様々な口頭発表・シンポジウムが行われる中、報告者は日本語学・日本語教育関連のセッションに参加したが、特に日本語教育学関連では生成 AI や DX 時代を踏まえた発表が多かった。同年 10 月、韓国で開催された国際学術大会でも同様の傾向が窺われたが、今後もこの方面での研究の蓄積が増えてゆくものと思われる。

【写真 1】報告者が口頭発表を行った会場



【写真 2】会場 1 階、受付フロアにおける報告者



¹ <https://www.taiwanjapanese.url.tw/eacjs2024/about.html> 最終閲覧日：2024 年 12 月 13 日